

NHK わたしの自叙伝

NHK CD

CD 全39枚 解説書付

全78人収録

昭和

*これで

近くが
一層なる

昭和を代表する各界の巨星78人

蜷川虎三 藤山愛一郎 むのたけじ
森恭三 扇谷正造 小林勇 石垣綾子 丸岡秀子
今西錦司 川喜田二郎 有賀喜左衛門 宮本常一
井上光貞 江上波夫 直良信夫 末永雅雄
本田正次 木原均 林竹二 大村はま 城戸幡太郎
松前重義 丹羽文雄 井上光晴 尾崎一雄 黒岩重吾
大原富枝 田宮虎彦 新藤兼人 今井正 今日出海
依田義賢 渡辺暁雄 高木東六 博多淡海 北條秀司
森繁久彌 芦田伸介 長谷川一夫 田中千代
福本和夫 太田薫 永野重雄 水上達三
瀬川美能留 吉野俊彦 高柳健次郎 井深大
黒沢酉蔵 山内みな 丹下健三 福山敏男 島秀雄
茅誠司 早石修 河村郁 平澤興 湯浅八郎
葉上照澄 小笠原英法 中村真一郎 山本茂實
石垣りん 松田解子 高光一也 八木一夫 寿岳文章
大江巳之助 手塚治虫 田河水泡 横山泰三 濱谷浩
橋本宇太郎 笑福亭松鶴 平川唯一
辻嘉一 川上哲治 島岡吉郎 (収載巻数順)

聞いたことありますか？
あの人の肉声を、語り口を

みずから語り伝える 生涯の核心とその後——

わたしの生き方 わたしの心 わたしの生きた時代

全巻揃

残部

数組

2025年1月

販売

資料に命の心を
作品に心こぼるを
形にして伝える。

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

発行 NHKサービスセンター
(2012年) 総販売・大空社

「あなたがたどった人生の核心はどこにありましたか？ そして、その事実が、その後の人生にどう投影されてきたか語ってください。」

語り始めた魅力ある個性の「わたし」と時代——

自らを語った
78人の
顔・顔・顔

・ジャケットより

●収録CDナンバー

政治




蛭川虎三 1 藤山愛一郎

社会・実業




むのたけじ 2 森恭三




扇谷正造 3 小林勇




石垣綾子 4 丸岡秀子

学問・研究




今西錦司 5 川喜田二郎




有賀喜左衛門 6 宮本常一




井上光貞 7 江上波夫




直良信夫 8 末永雅雄




本田正次 9 木原均

教育・宗教




林竹二 10 大村はま

教育・宗教




城戸幡太郎 11 松前重義

文芸




丹羽文雄 12 井上光晴




尾崎一雄 13 黒岩重吾




大原富枝 14 田宮虎彦



文化・芸術




新藤兼人 15 今井正




今日出海 16 依田義賢

渡辺暁雄 17 高木東六




博多淡海 18 北條秀司




森繁久彌 19 芦田伸介

芸能・スポーツ他




長谷川一夫 20 田中千代

政治




福本和夫 21 太田薫

社会・実業




永野重雄 22 水上達三




瀬川美能留 23 吉野俊彦




高柳健次郎 24 井深大





黒沢西蔵 25 山内みな

学問・研究




丹下健三 26 福山敏男

島秀雄 27 茅誠司




早石修 28 河村郁




平澤興 29 湯浅八郎

教育・宗教




葉上照澄 30 小笠原英法

文芸




中村真一郎 31 山本茂實




石垣りん 32 松田解子

文化・芸術




高光一也 33 八木一夫




寿岳文章 34 大江巳之助




手塚治虫 35 田河水泡




横山泰三 36 濱谷浩

芸能・スポーツ他




橋本宇太郎 37 笑福亭松鶴




平川唯一 38 辻嘉一




川上哲治 39 島岡吉郎

静かに、淡々と、真剣に、体験を再び噛みしめるように
ときに笑顔で、ときに熱情きわまって、怒りをぶつけ、言葉に詰まって——
つむぎ出された生きた証し。
●それぞれが思いを込めた約30分のストレートトーク

●政治家・実業家・事業家・社会運動家・教育者・学者・研究者・ジャーナリスト・作家・芸術家・漫画家・デザイナー・演劇人・映画人・俳優・スポーツ人——現代日本、**昭和**という時代に、さまざまな分野で活躍し今に名を残す“あの人”たちが、じっくりと自らを語る貴重な音声記録。

●CD 1枚に分野毎2人収録しトールケースに収納 ●収録時間平均 57分 / 枚

〈お断り〉このCDはNHK教育テレビで放送された「わたしの自叙伝」(1978-1981年)の音声のみを収録したものです。音声古い一部お聞き辛い箇所がございます。またスタジオ外での録音には鳥の声などの外部音が混入した場合もございますが、その点ご了承の程お願い致します。

■五十音順人名／分野別一覧は11ページにあります。

このCDは音声のみを収録しています。映像は収録していません。

1

政治 1



蜷川虎三 にながわとらぞう 負ける時は死ぬ時

1897(明治30)～1981(昭和56) 政治家 東京都出身 京都府知事7期28年 ●深川木場でガキの遊びを徹底的にやった少年時代。両親に、戦う決心をしたら死ぬまで戦えと教えられた。議会生活も「ガキどもの生活」とちっとも変わらず、議会に行くのが嫌だと思ったことは無い。

藤山愛一郎 ふじやま あいいちろう 闘病・外遊の青春

1897(明治30)～1985(昭和60) 政治家 東京都出身 大日本製糖社長 岸内閣外務大臣 ●慶應大時代に中国旅行。結核で6年にわたり療養、大学中退。人生・命について考えた。回復後ヨーロッパ外遊、自由な気質に触れる。蒋介石と会談、日中友好に尽力。

2

社会・実業 1



むのたけじ むのたけじ たいまつ新聞創刊まで

1915(大正4)～2016(平成28) 新聞記者・ジャーナリスト 秋田県出身 報知新聞 朝日新聞 ●地方局でも海外でも報道と良心との軋轢に悩む。東京大空襲で大衆の悲劇を目の当たりにし記者としての罪の意識から辞職。戦後、秋田で週刊新聞「たいまつ」創刊。反戦言論活動継続。

森恭三 もりきょうぞう ニューヨークで聞いた開戦

1907(明治40)～1984(昭和59) 新聞記者・ジャーナリスト 兵庫県出身 大阪朝日新聞ヨーロッパ総局長 ●太平洋戦争直前ニューヨーク支局員。米議会の武器貸与法案で日米関係悪化を予見。死を覚悟して過ごす日々、家族への想い、開戦に至った外交を振り返る。

3

社会・実業 2



扇谷正造 おうぎやしょうぞう 地方的文化人の半生

1913(大正2)～1992(平成4) 評論家 宮城県出身 朝日新聞 ●大正デモクラシー期の東北で送った少年時代。東大新聞部での大誤報事件。戦後、「週刊朝日」の編集方針を刷新した「扇谷旋風」。「多読・乱読・雑読」の読書論を展開。

小林勇 こばやし いさむ 出版人の50年

1903(明治36)～1981(昭和56) 岩波書店会長・文人画家 長野県出身 岩波映画 ●岩波茂雄と出会い出版が生涯の職業に。岩波文庫を創刊、ストライキ・組合とのやり取りで失意、退職。幸田露伴ら多くの作家の支えで鉄塔書院設立、再び岩波へ戻りキャリアを重ねる。

4

社会・実業 3



石垣綾子 いしがきあやこ 大恐慌のアメリカに生きて

1903(明治36)～1996(平成8) 評論家 東京都出身 第一次主婦論争 ●大正末、自由学園卒業後に単身渡米、ニューヨークでのちの伴侶、画家・石垣栄太郎と出会う。世界大恐慌時に町工場でさまざまな国籍の人々とふれ合い、社会運動に目覚めるきっかけに。

丸岡秀子 まるおかひでこ 胸の中に墓標がいっぱい

1903(明治36)～1990(平成2) 評論家 長野県出身 日本母親大会 ●養女に出され家業の農業を手伝いながら奈良女子高等師範へ。養蚕農家で女性が威張る機会を体感し、大正デモクラシー時の女子教育に違和感を感じていた。運命を切り開く力を与えることが教育の原則。

5

学問・研究 1



今西錦司 いまにしきんじ 山と探検

1902(明治35)～1992(平成4) 人類学者・登山家 京都府出身 ヒマラヤ登山 霊長類研究 ●パイオニアワークに身を挺して飛び込む性格。探検は学問に通じる。溪流のカゲロウの観察から種としての「棲み分け理論」。樺太、モンゴル高地探検を経て哺乳類研究に転進。

川喜田二郎 かわきたじろう ネパール山岳民族のなかで

1920(大正9)～2009(平成21) 人類学・地理学者・登山家 三重県出身 マグサイサイ賞 KJ法 ●住人の喜ぶ顔、それが一番の報酬。ヒマラヤ村落の困窮の解決のため11年に及ぶ技術協力。海外協力に際しての重要な心得を示し、外部からの無理解な批判に反論。

6

学問・研究 2



有賀喜左衛門 あるがきざえもん 民族の心をもとめて

1897(明治30)～1979(昭和54) 農村社会学者 長野県出身 ●京大から東大へ移り、柳宗悦に出会い朝鮮美術の美しさに目を開かされ、柳田國男とも出会い日本学を学ぶ。それぞれの民族には「民族の心」とでもいう固有な美的特質があることに気づく。

宮本常一 みやもとつねいち 民俗学との出会い

1907(明治40)～1981(昭和56) 民俗学者 山口県出身 ●渋沢敬三の勧めで民俗文化の発掘者に。柳田國男とも親交。全国を旅して優れた語り部に出会い、多くの記録を残した。民衆の生活が滲み出た民俗学を確立。先を急いじゃいかん、すべてがロングランなんだ。

7

学問・研究 3



井上光貞 いのうえみつさだ 戦時下に古代を読む

1917(大正6)～1983(昭和58) 日本史(古代)学者 東京都出身 ●天皇家起源は民族叙事詩とは無関係であるとする書物は、発禁書ながら印象深い読書だった。永井荷風「墨東綺譚」の中に真実を求める姿勢を感じたことが、歴史学への関心の起りだった。

江上波夫 えがみなみお 黄塵万丈モンゴルをゆく

1906(明治39)～2002(平成14) 東洋史(考古)学者 山口県出身 ●北京に遊学、中国・モンゴル文化のモザイク文化圏＝蒙古を旅した。農耕文化と遊牧文化の違いと融合の観察から「騎馬民族日本征服説」が誕生。生活文化が社会を規定することが判った。

8

学問・研究 4



直良信夫 なおらのぶお 明石原人発見

1902(明治35)～1985(昭和60) 考古学者(古生物) 大分県出身 ●明石の海岸で人骨化石を発見、東大に鑑定を依頼するも、学歴偏重の学界の閉鎖性に泣く。空襲で化石を焼失して茫然自失。学界の後ろ盾の無い研究者の苦い思い出。

末永雅雄 すえながまさお 古墳遍歴

1897(明治30)～1991(平成3) 考古学者(古墳) 大阪府出身 榎原考古学研究所 ●少年時代、御陵の中で遊んだことが考古学研究に進んだきっかけ。古墳出土の鉄製品や石舞台の研究を手がけ、古墳を上空から観察する「航空古墳研究」の手法で新境地を開く。

9

学問・研究 5



本田正次 ほんだまさじ 草木を友に

1897(明治30)～1984(昭和59) 植物学者 熊本県出身 ●栃木山奥での新種発見の思い出。植物の老いと時間感覚とは何か。草花観察と種の消失を見届けてきたこと。戦時中、小石川植物園長として遭遇した様々な困難。植物はわが師・わが友・わが命。

木原均 きはらひとし 小麦をえらんだ道

1893(明治26)～1986(昭和61) 遺伝学・生物学者 東京都出身 ●大学の先輩・坂村徹と出会い小麦研究の道へ。ドイツの研究者と意見を交わした在外研究時代。イランへの学術探検で小麦の祖先を発見した。いい研究をやってもその成功を本人が見ることは稀。

10

教育・宗教 1



林竹二 はやしただけじ 子供とともに育つ

1906(明治39)～1985(昭和60) 教育学者・教育家 栃木県出身 ●全国の小中学校で「人間について」200回を超える授業。退官後も各地で対話を続ける。成績というのは仮の姿、深い学習のある授業で成績の差は消える。子供は非常に大きな力を持っている。

大村はま おおむらはま 教えつづけた50年

1906(明治39)～2005(平成17) 教育者 神奈川県出身 ●戦後、新制中学での教育に無力さを感じた。子どもらの新聞切り抜きの「活字を見る目」に救われ、「やさしい言葉」でこそ本当に話し合えることに気づいた。出来ることを力一杯やらせれば子どもは伸びる。

11

教育・宗教 2



城戸幡太郎 きどまंतरろう 教育改革の旗の下に

1893(明治26)～1985(昭和60) 教育学者・教育家 愛媛県出身 ●祖父の薫陶「自由であること」が教育観の基調。東北、北海道で生活綴り方運動と出会い、勤労主義から生活主義に転じた。弾圧も受けたが、戦後は「教育科学」を標榜した。

松前重義 まつまえしげよし 青年道場「望星学塾」の日々

1901(明治34)～1991(平成3) 教育者 熊本県出身 ●人生に悩んだとき聖書と内村鑑三に出会い教育を志す。無装荷搬送ケーブル実用化に尽力していた頃、デンマーク国民高等学校を訪問したことが後の望星学塾と東海大学設立につながった。若き日に汝の思想を培え。

12

文芸 1



丹羽文雄 にわふみお 母への愛憎

1904(明治37)～2005(平成17) 作家 三重県出身 ●寺の子として生まれるも勘当される。母をひとりの女として描き「非情な作家」といわれた。放縦な人生を送った母の晩年を看取り「煩惱即菩提」「悪人正機」を実感。母がいなければ小説家の自分が存在しなかった。

井上光晴 いのうえみつはる 海底炭坑の青春

1926(大正15)～1992(平成4) 作家 福岡県出身「ガダルカナル戦詩集」 ●起きながら眠り、眠りながら起きる術を得た、長崎の海底炭坑での壮絶な環境下の労働。初恋と失恋。霊媒師と香具師の騙しのテクニックに憧れた少年時代。それらが作家の原点となった。

13

文芸 2



尾崎一雄 おざきかずお 病と貧乏と芳兵衛と

1899(明治32)～1983(昭和58) 作家 神奈川県出身「暢気眼鏡」「虫のいろいろ」 ●自らの土俗的な作品傾向には、生涯の大部分を過ごしている小田原が影響している。着物を質流していた貧乏生活、療養生活を経て得た死生観を語る。人間は本来無一物。

黒岩重吾 くらいわじゅうご わが闘病時代

1924(大正13)～2003(平成15) 作家 大阪府出身 ●百万人に一人という奇病にかかり4年間闘病。人生を、人間を恨み、悪い事をしていない自分がなぜこんな目に、と嘆いたが、絶望と向き合うことで生きがいを見つけた。苦しみが生きがいになれば怖いものは何もない。

14

文芸 3



大原富枝 おおはらとみえ ふり返る青春

1912(大正元)～2000(平成12) 作家 高知県出身「婉という女」 ●高知の学生時代に友人が自殺、その頃から短歌を詠み始める。東京の学生と恋に落ちるが破局、戦後、男性の母親と34年ぶりに再会して慟哭。ふり返るのを自らに禁じていた「躓きの青春」を語る。

田宮虎彦 たみやとらひこ 父子のきずな

1911(明治44)～1988(昭和63) 作家 東京都出身「足摺岬」 ●父の愛を感じずに育ったことが創作意欲の原動力だった。スタンダード「赤と黒」やスタインベック「エデンの東」の父という存在に感銘を受け、父親の核心に触れる機会を得た。父親を小説に書くことで救われた。

15

文化・芸術 1



新藤兼人 しんどうかねと 一家離散の記憶

1912(明治45)～2012(平成24) 映画監督 広島県出身 近代映画協会 ●三代続く宮大工だった実家が離散。姉は家を助けるために多額の結納金を用意したアメリカ移民へ嫁いだ。53年ぶりに姉との再会をカリフォルニアで果たす。時の流れはしょうがないものだ。

今井正 いまいただし レッドパーズの頃

1912(明治45)～1991(平成3) 映画監督 東京都出身 ●戦後、会社企画のみの映画界から独立、「青い山脈」制作。戦争に絡む映画はGHQの検閲、レッドパーズで屑屋の元締に。沖繩を知らずして「ひめゆりの塔」を制作し大ヒット。苦難の中、夢中で映画に取り組んだ。

いつのまにか、自らの人生を重ね合わせて聴いている自分がある。

16

文化・芸術 2



今日出海 こんひでみ ルソン島脱出記

1903(明治36)～1984(昭和59) 評論・演出家 北海道出身 ●陸軍報道班員として、フィリピン・ルソン島を5か月間放浪。難民村落での米国人彫刻家との出会い。台湾での特攻隊少年兵、台湾～本土間試験飛行路のこと。せっぱ詰まると文化もへったくれもないね。

依田義賢 よだよしきた 映画スタジオの青春

1909(明治42)～1991(平成3) 脚本家(映画) 京都府出身 ●活動からトーキー過渡期の映画界で溝口健二監督から厳しく鍛えられ脚本家に。社会派リアリズム映画が評価される。監督はスタッフとキャストの魂を作品に埋め込む仕事師、最高・最良を考えることを教え込まれた。

17

文化・芸術 3



渡辺暁雄 わたなべ あけお 母を語る

1919(大正8)～1990(平成2) 音楽家・指揮者 東京都出身 日本フィルハーモニー交響楽団 ●フィンランド人の母が弾くピアノを聴いて育ち音楽家に。活動を始めた矢先の母の死。亡くなってはじめて母の存在、そのありがたさを感じ入った。フィンランドは第二の故郷。

高木東六 たかぎ とうろく パリ留学時代

1904(明治37)～2006(平成18) 音楽家・作曲家 鳥取県出身 ●宣教師の家に生まれ音楽に目覚める。ピアニストを目指し音校に入学するも中退、パリ留学の挫折、モンパルナスでの憂鬱な日々。シャンソン歌手ダミアに魅せられた青春。日本人には日本人の音楽がある。

18

芸能・スポーツ他 1



博多淡海 はかた たんかい 仁輪加仕立ての旅鳥

1930(昭和5)～1981(昭和56) 喜劇役者・座長 福岡県出身 ●芸人の家に生まれ、学校にも行けず修業の日々。子どもながらに戦地慰問、芸人として浅草の舞台に立つ。一座を解散後、藤山寛美の松竹新喜劇に参加。振り返れば、芸人一家に生まれてよかった。

北條秀司 ほうじょう ひでじ 名優たちとの幾年月

1902(明治35)～1996(平成8) 劇作家・著述家 大阪府出身 ●宝塚少女歌劇の台本が上演され劇作に没頭。鉄道会社勤務の傍らデビュー。遊郭に遊び、女の世界を描く。新国劇、新派、歌舞伎に台本を提供。数々の昭和の名優たちと一緒に芝居に取り組んだ幸せ。

19

芸能・スポーツ他 2



森繁久彌 もりしげ ひさや 放浪の青春

1913(大正2)～2009(平成21) 俳優 大阪府出身 ●出生から中学入学の頃のこと。早大入学後、芝居・演技への興味を持ち軍事教練が嫌で退学。NHKアナウンサーとして満洲、蒙古へ。戦後、第二の人生で困難に遭遇。失敗とか敗北とかいうものが人間を作る。

芦田伸介 あしだ しんすけ 大陸彷徨記

1917(大正6)～1999(平成11) 俳優 島根県出身 ●チェーホフ劇に衝撃を受け演劇を志す。満洲での森繁久彌との出会い。ソ連侵攻、玉音放送。妻子を伴い新京から奉天へ脱出、病院船での引揚げ。中国の大地を北斗七星を頼りに徒歩で逃げた壮絶な脱出記。

20

芸能・スポーツ他 3



長谷川一夫 はせがわ かずお ベルばら演出のころ

1908(明治41)～1984(昭和59) 俳優 京都府出身 林長二郎 ●宝塚というイメージを意識した「ベルサイユのばら」演出。ラブシーン、男装の麗人を演じさせるテクニック、演技者方法というスタンスの大切さについて。他の演出家がやらなかったことが年頃の女性に受けた。

田中千代 たなか ちよ わが留学記

1906(明治39)～1999(平成11) 服飾家・教育者 東京都出身 ●夫・田中薫の留学に同行して渡欧。パウハウス系の教授ハスハイエと出会い葉っぱのデッサンからファッションの本質を学ぶ。ニューヨークで猛勉強し帰国後、デザインと洋裁の独習書を出版、田中千代学園を創設。

21

政治 2



福本和夫 ふくもと かずお **獄窓十余年**

1894(明治27)～1983(昭和58) 評論家 鳥取県出身 日本共産党 ●3.15の大検挙では免れたが1928年、大阪で逮捕され14年間入獄。獄中、言海、広辞林、百科事典、クラウゼヴィッツ戦争論を耽読。「日本ルネッサンス論」を構想。零下14, 5度の刑務所。

太田薫 おおた かおる **三池闘争のころ**

1912(明治45)～1998(平成10) 労働運動家 岡山県出身 総評議長 ●戦後、宇部興産で労組の委員長に。ストライキを何遍も経験したが、本当に資本家は強いということを知っている。三井闘争はまるで内乱のようだったが、離職者法はその成果だった。

22

社会・実業 4



永野重雄 ながの しげお **母の愛情に負けた腕白少年**

1900(明治33)～1984(昭和59) 実業家 島根県出身 日本商工会議所会頭 新日本製鉄 ●息子9人を残して父が他界、それでも母は辛い時でも陰気な顔すらせず、苦労した姿を全然見せなかった。それが友人知己と愉かに暮らせる習性を作ってくれた。

水上達三 みずかみ たつぞう **貿易・戦中戦後**

1903(明治36)～1989(平成元) 実業家 山梨県出身 三井物産 日本貿易会 ●戦争中、外地で軍に協力する難しい立場、石油依存には限界があるのでアルコール工場を作れとの指令。戦後、三井物産解体時、過酷な条件下で100人以内の会社を多く設立した。

23

社会・実業 5



瀬川美能留 せがわみのる **父の死**

1906(明治39)～1991(平成3) 実業家 奈良県出身 野村證券 ●父を病院に担ぎ込んだが手遅れだった。恩師の後押しで学業を継続、以後仕事に情熱と時間を傾注した。戦後の財閥解体で処理、5年間に売りさばかれた株で800万人の株主層を作った。

吉野俊彦 よしの としひこ **森鷗外を友として**

1915(大正4)～2005(平成17) 経済評論家 千葉県出身 日本銀行 山一証券経済研究所 ●鷗外の生涯に惹かれたきっかけは、軍医でありながら膨大な作品を残した裏に、トラブルがあつたに違いないという勘。サラリーマンの哀歓という角度から栄光と挫折を追った。

24

社会・実業 6



高柳健次郎 たかやなぎ けんじろう **テレビ事始め**

1899(明治32)～1990(平成2) 技術者 静岡県出身 テレビの父 日本ビクター ●カタカナの「イ」が映るようにできたのは大正15年12月。10年、20年先に必要なものをコツコツと勉強していけば、いずれ世の中が必要だという時に、役に立つようにできるものだ。

井深大 いぶかまさる **トランジスタラジオ誕生のころ**

1908(明治41)～1997(平成9) 技術者・実業家 栃木県出身 ソニー ●終戦後「東京通信研究所」設立、テープレコーダーとトランジスタラジオに焦点。人のやらないこと、いままで存在しないものを打ち出していく際に、従来のマーケティングは役立たない。

25

社会・実業 7



黒沢西蔵 くろさわ とりぞう **田中正造との出会い**

1885(明治18)～1982(昭和57) 実業家 茨城県出身 田中正造秘書 雪印乳業 ●正造の天皇直訴報道で、大学生に混じって渡良瀬川の鉱毒現場に行った。銅は掘り尽くせば終わるが土地はある限り汚染され続ける。こんな馬鹿げたことはない。

山内みな やまのうち みな **東京モスリン会社争議のころ**

1900(明治33)～1990(平成2) 社会運動家 宮城県出身 友愛会 原水禁 ●紡績工場へ就職したが12時間労働。初めてのストライキは1日だけで終了、争議団に代わり友愛会が交渉に。経営側は首謀者20人に退職金をたっぷり支払い、会社を辞めさせた。

26

学問・研究 6



丹下健三 たんげけんぞう 建築・道・ひろば・都市

1913(大正2)～2005(平成17) 建築家 大阪府出身 広島平和記念公園 ●伝統を現代の建築技術の中にどう活かすか。建築が都市に並ぶ場合、文章でいえば文法が必要。木にたとえれば、幹とか枝をきちっと与えれば色々な形の花が咲いても全体の調和が保たれる。

福山敏男 ふくやまとしお 「古代建築史」修行五十年

1905(明治38)～1995(平成7) 建築史家 福岡県出身 ●小泉八雲のことに感銘受け、内務省造神官使庁に。法隆寺の五重塔の落書きは、子どもたちの手習歌「難波津に咲くやこの花云々」とひらめいた。いつも新鮮な感覚を保つ。

27

学問・研究 7



島秀雄 しまひでお D51 誕生の頃

1901(明治34)～1998(平成10) 鉄道技術者 大阪府出身 東海道新幹線 ●鉄道省に就職し大宮工場へ。C53の設計に参画、そしてD51で機関車の形と思想を確立したと思っている。「消えゆく」蒸気機関車はいいが、「滅びゆく」という形容詞は使いたくない。

茅誠司 かやせいじ 南極観測のころ

1898(明治31)～1988(昭和63) 物理学者 神奈川県出身 東京大学総長 ●日本学術会議について思い出深く残っていることは、原子力問題、中国招待、そして南極観測。昭和32年1月25日オングル島に上陸、船は宗谷。乗り越えられない困難はなかった。

28

学問・研究 8



早石修 はやし おさむ 占領下の米国留学

1920(大正9)～2015(平成27) 医学者・細胞生物学 米国カリフォルニア州出身 ●戦後の焼け跡の土から採取したバクテリアがのちの生化学研究に大きく寄与する酸素添加酵素の発見につながる。基礎研究と開発途上国研究者の受け入れ。研究はやってみないとわからない。

河村郁 かわむらいく 結核根絶をめざして

1902(明治35)～1990(平成2) 看護学 長野県出身 看護協会 ●近江八幡のヴォーグズさんから看護婦教育とサナトリウムの管理を依頼された。結核予防を社会的な運動へ。日本結核予防協会診療センター、結核療養所晴嵐荘ができた。また訪問看護を始めた。

29

学問・研究 9



平澤興 ひらさわこう 京の田舎人

1900(明治33)～1989(平成元) 医学者・脳神経解剖学 新潟県出身 京都大学総長2期 ●村医者になるという親との約束を破り学者の道に進むも兵糧を絶たれた。スイス留学でモノコフ先生から「わかるとわかったつもりとは違う」と言われ、全情熱を研究にかけた。

湯浅一郎 ゆあさはちろう 両大戦下でのアメリカ体験

1890(明治23)～1981(昭和56) 教育者・昆虫学 東京都出身 同志社大総長 国際基督教大総長 ●真珠湾攻撃の朝、メイン州の教会でキリスト者の平和責任と題して説教。原爆投下をニューヨークで聞いた。平素は殺伐粗暴な地下鉄車内では誰も顔を上げなかった。

30

教育・宗教 3



葉上照澄 はがみしょうちょう 敗戦と千日回峰行

1903(明治36)～1989(平成元) 天台宗僧侶・大阿闍梨 岡山県出身 ●長い歴史の比叡山延暦寺でも50人と達成者のいない千日回峰満行者。敗戦によって仏門を志したが、戦勝国のマッカーサーを一目見てやろうと横浜まで出向いたことも。一切は巡り合わせ。

小笠原英法 おがさわえいほう 舞台を捨てて仏門へ

1914(大正3)～2002(平成14) 女優・尼僧 広島県出身 ●宝塚歌劇団星組トップの座から女優へ転身、結婚と離婚…成功と失敗、山あり谷ありの人生を送ったのち仏門にという稀有な人生を振り返る。「生きているんですから精一杯生きて」

31
文芸 4



中村真一郎 なかむらしんいちろう 母と女のあいだに

1918(大正7)～1997(平成9) 作家・小説家 東京都出身「四季」四部作 ●幼いころ死別した母になるという異様な夢を見た。その経験から自分と母、女性についてさまざまに思索を重ね、集大成四部作を構想した。文学者は現実と夢の世界を行ったり来たりする。

山本茂實 やまもと しげみ 野麦峠への道

1917(大正6)～1998(平成10) 作家 長野県出身「ああ野麦峠」 ●人の心の美しさ、汚さを、しみじみと私の体に教え込んでくれたのは、松本の町を毎日車をひいて野菜物を売っていた10年間と12年間のみくちやにされた葦の生活。何が幸せになるかわからない。

32
文芸 5



石垣りん いしがきりん わたしの前に詩集が三つ

1920(大正9)～2004(平成16) 詩人 東京都出身 ●稼いだお金で自分のしたいことをしようと、14歳で銀行に就職したが、生きるのに精一杯で他者の幸せに加担することもなく詩を書いていた。詩は自分でもはっきり掴むことができないものを形にして見せる。

松田解子 まつだときこ はるかなる銅山

1905(明治38)～2004(平成16) 作家 秋田県出身「おりん口伝」 ●鉱山は私に命を与えてくれた。「父と兄が道楽者で身代を食いつぶし、オカアは銅山にきて再婚して8人の子持ち。自分の腹から出した一人や二人、自分の腕で養わなきゃだめだ」母の告白が耳に。

33
文化・芸術 4



高光一也 たかみつ かずや 仏の道と絵の道と

1907(明治40)～1986(昭和61) 画家 鳥取県出身 浄土真宗 ●父は道を求めて放浪もした。工業高校図案絵画科へ入ったが、ゴッホの絵のようなものを描きたいと思い退学を考えた。自分というものがすっかり判らなくなった時に、青天の霹靂のように仏の道に入った。

八木一夫 やぎかずお オブジェ焼誕生のころ

1918(大正7)～1979(昭和54) 陶芸家 京都府出身 走泥社 ●幼いころから図画工作の成績も芳しくなく、美の才能に乏しいと周囲から思われていたが、それをはねのけて新しい焼物を生み出すまでを振り返る。「飢えている状態でないものを発見できない性分だ」

34
文化・芸術 5



寿岳文章 じゅがく ぶんしょう 紙すき村 行脚のころ

1900(明治33)～1992(平成4) 英文学者・書誌学 兵庫県出身 ●ウィリアム・ブレイクの書誌研究から和紙研究へ。昭和12～15年、日本全国の紙漉き地を巡り歴史地理学的に調査。フィールドワークとして初の試みだった。「日本の紙」(1967)を英文で出版した。

大江巳之助 おおえみのすけ 人形に魂をこめて

1907(明治40)～1997(平成9) 文楽人形師 徳島県出身 ●人形師の家に生まれながら人形師を志さなかったが、グラフ誌で見た大阪文楽座の写真に深く感銘を受け修行し始めた。人形作りの真髄を学んでいった過程を振り返る。「人形は舞台にかけて作れ」

35
文化・芸術 6



手塚治虫 てづか おさむ こども漫画 33年

1928(昭和3)～1989(平成元) 漫画家 大阪府出身「鉄腕アトム」 ●医者なのになぜ漫画家にな？描きだしたのは小学校2,3年頃。コンプレックスの裏側でがむしゃらに取り組んでいた。僕の漫画は、「生きる」ということに執着をもったものが多い。漫画はハングリーアート。

田河水泡 たがわすいほう のらくろ誕生前後

1899(明治32)～1989(平成元) 漫画家 東京都出身「のらくろ」 ●大正の終わり頃、芸術運動に参加して抽象画の世界で暴れた。漫画を借りて読む子どもたちを励ましてやりたかった。主人公が読者よりもっと底辺にいると思えば、読者は優越感で笑うことができる。

知らなかった！ 記憶に残るあの人にこんな人生が！

36

文化・芸術 7



横山泰三 よこやまたいぞう プーさんの誕生

1917(大正6)～2007(平成19) 漫画家 高知県出身 ●商人になるため上京し商業校へ通うも、下宿の居候の影響で絵描きを志す。戦後、漫画を描き始め、毎日新聞夕刊で4コマ漫画「プーさん」を連載、デフォルメされた線で社会諷刺するスタイルが大人気に。

濱谷浩 はまやひろし 雪国からの出発

1915(大正4)～1999(平成11) 写真家 東京都出身 ●戦時中、報道写真用に日本軍のスキー連隊を撮影していた時に滞在した雪国での生活に衝撃を受ける。渋沢敬三の勧めもあり民俗学の記録としての写真を撮ることを志す。「身近な日常の民を知りたい」

37

芸能・スポーツ他 4



橋本宇太郎 はしもとうたろう 空襲下の対局

1907(明治40)～1994(平成6) 囲碁棋士 大阪府出身 ●広島空襲下で本因坊戦の対局中、警察からの中止命令で五日市に。そこからは広島市が一望でき、8月6日午前8時の原爆投下の一部始終をつぶさに目撃。地獄絵だった。碁は盤上に倒れる気概で打つ。

笑福亭松鶴 しょうふくていしよかく おおけにおやっさん

1918(大正7)～1986(昭和61) 落語家 大阪府出身 ●三つの頃から酒とは切っても切れない縁。お茶屋さんへ丁稚奉公。親父さんの最後の稽古は、私に天王寺参りを稽古してくれたんやろと思う。臨終の時、おやっさんは、お水の代わりに酒を丁度3合呑みました。

38

芸能・スポーツ他 5



平川唯一 ひらかわただいち カムカム英語の青春

1902(明治35)～1993(平成5) アナウンサー・ラジオ英会話講師 岡山県出身 NHK ●出稼ぎに行った父を迎えに渡米、そのまま17年アメリカに。19歳の小学1年からワシントン大演劇学へ、英語の発音が鍛えられた。幼児の言葉遊びが「カムカム英語」成功のカギ。

辻嘉一 つじかいち しゅんに生きて

1907(明治40)～1988(昭和63) 料理人 京都府出身 ●14歳で庖丁を持ち、茶懐石料理一筋の人生。裏千家家元三代のご臈眞。「懐石料理は無声・無音の真剣勝負、コトリと音をさせてもいかんです。」乾季のビルマで土だるまに。水の尊さは忘れない。

39

芸能・スポーツ他 6



川上哲治 かわかみてつはる 球道開眼

1920(大正9)～2013(平成25) プロ野球選手・監督・解説者 熊本県出身 読売巨人軍 打撃の神様 ●小学校4年から野球少年。父からは、物事はやり遂げるまでやめちゃいかんということを、母からは、体を動かして働らきゃ食える、やらなきゃ食えないことを学んだ。

島岡吉郎 しまおかきちろう 熱球30年

1911(明治44)～1989(平成元) 大学野球監督 長野県出身 明治大学 ●ベースボールに理解のない女先生を代えてもらおうと村長さんに談判。高校野球部監督になって甲子園病に。大学野球は合宿所で精神を、グラウンドで技術を鍛える。自分の欠点に挑戦する。

別冊・解説書〈人物紹介〉

全78人の語る内容のエッセンスをまとめ、略歴・参考資料を簡略に付す。(1人1頁)
四六変型判・並製・90頁

分野別	CD No.	収録内容 人名(活動領域 生没年) タイトル	五十音順人名	CD No.	
学問・研究	5	今西錦司 (人類学者・登山家 1902-92) 山と探検	芦田伸介	19	
	6	川喜田二郎 (人類学・地理学者・登山家 1920-2009) ネパール山岳民族のなかで	有賀喜左衛門	6	
		有賀喜左衛門 (農村社会学者 1897-1979) 民族の心をもとめて	石垣綾子	4	
	7	宮本常一 (民俗学者 1907-81) 民俗学との出会い	石垣りん	32	
		井上光貞 (日本史・古代学者 1917-83) 戦時下に古代を読む	井上光貞	7	
	8	江上波夫 (東洋史・考古学者 1906-2002) 黄塵万丈モンゴルをゆく	井上光晴	12	
		直良信夫 (考古学者・古生物 1902-85) 明石原人発見	井深大	24	
	9	末永雅雄 (考古学者・古墳 1897-1991) 古墳遍歴	今井正	15	
		本田正次 (植物学者 1897-1984) 草木を友に	今西錦司	5	
	26	木原均 (遺伝学・生物学者 1893-1986) 小麦をえらんだ道	江上波夫	7	
		丹下健三 (建築家 1913-2005) 建築・道・ひろば・都市	扇谷正造	3	
	27	福山敏男 (建築史家 1905-95) 「古代建築史」修行五十年	大江巳之助	34	
		島秀雄 (鉄道技術者 1901-98) D 51 誕生の頃	太田薫	21	
	28	茅誠司 (物理学者 1898-1988) 南極観測のころ	大原富枝	14	
早石修 (医学者・細胞生物学 1920-2015) 占領下の米国留学		大村はま	10		
29	河村郁 (看護学 1902-90) 結核根絶をめざして	小笠原英法	30		
	平澤興 (医学者・脳神経解剖学 1900-89) 京の田舎人	尾崎一雄	13		
教育・宗教	10	湯浅八郎 (教育者・昆虫学 1890-1981) 兩大戦下でのアメリカ体験	茅誠司	27	
		林竹二 (教育学者・教育家 1906-85) 子供とともに育つ	川上哲治	39	
	大村はま (教育者 1906-2005) 教えつづけた 50年	川喜田二郎	5		
	11	城戸幡太郎 (教育学者・教育家 1893-1985) 教育改革の旗の下に	河村郁	28	
		松前重義 (教育者 1901-91) 青年道場「望星学塾」の日々	城戸幡太郎	11	
30	葉上照澄 (天台宗僧侶・大阿闍梨 1903-89) 敗戦と千日回峰行	木原均	9		
芸能・スポーツ他	18	小笠原英法 (女優・尼僧 1914-2002) 舞台を捨てて仏門へ	黒岩重吾	13	
		博多淡海 (喜劇役者・座長 1930-81) 仁輪加仕立ての旅鳥	黒沢西蔵	25	
	19	北條秀司 (劇作家・著述家 1902-96) 名優たちとの幾年月	小林勇	3	
		森繁久彌 (俳優 1913-2009) 放浪の青春	今日出海	16	
	20	芦田伸介 (俳優 1917-99) 大陸彷徨記	島岡吉郎	39	
		長谷川一夫 (俳優 1908-84) ベルばら演出のころ	島秀雄	27	
	37	田中千代 (服飾家・教育者 1906-99) わが留学記	寿岳文章	34	
		橋本宇太郎 (囲碁棋士 1907-94) 空襲下の対局	笑福亭松鶴	27	
	38	笑福亭松鶴 (落語家 1918-86) おおけにおやつさん	新藤兼人	15	
		平川唯一 (アナウンサー・ラジオ英会話講師 1902-93) カムカム英語の青春	末永雅雄	8	
	39	辻嘉一 (料理人 1907-88) しゅんに生きて	瀬川美能留	23	
		川上哲治 (プロ野球選手・監督・解説者 1920-2013) 球道開眼	高木東六	17	
	社会・実業	2	島岡吉郎 (大学野球監督 1911-89) 熱球 30年	高木東六	17
			むのたけじ (新聞記者・ジャーナリスト 1915-2016) たいまつ新聞創刊まで	高光一也	33
3		森恭三 (新聞記者・ジャーナリスト 1907-84) ニューヨークで聞いた開戦	高柳健次郎	24	
		扇谷正造 (評論家 1913-92) 地方的文化人の半生	田河水泡	35	
4		小林勇 (岩波書店会長・文人画家 1903-81) 出版人の50年	田中千代	20	
		石垣綾子 (評論家 1903-96) 大恐慌のアメリカに生きて	田宮虎彦	14	
22		丸岡秀子 (評論家 1903-90) 胸の中に墓標がいっぱい	丹下健三	26	
		永野重雄 (実業家 1900-84) 母の愛情に負けた腕白少年	辻嘉一	38	
23		水上達三 (実業家 1903-89) 貿易・戦中戦後	手塚治虫	35	
		瀬川美能留 (実業家 1906-91) 父の死	直良信夫	8	
24		吉野俊彦 (経済評論家 1915-2005) 森鷗外を友として	永野重雄	21	
		高柳健次郎 (技術者 1899-1990) テレビ事始め	中村真一郎	32	
25		井深大 (技術者・実業家 1908-97) トランジスターラジオ誕生のころ	蜷川虎三	1	
		黒沢西蔵 (実業家 1885-1982) 田中正造との出会い	丹羽文雄	12	
政治	1	山内みな (社会運動家 1900-90) 東京モスリン会社争議のころ	博多淡海	18	
		蜷川虎三 (政治家 1897-1981) 負ける時は死ぬ時	葉上照澄	30	
	21	藤山愛一郎 (政治家 1897-1985) 闘病・外遊の青春	橋本宇太郎	37	
		福本和夫 (評論家 1894-1983) 獄窓十余年	長谷川一夫	20	
	文化・芸術	15	太田薫 (労働運動家 1912-98) 三池闘争のころ	濱谷浩	36
			新藤兼人 (映画監督 1912-2012) 一家離散の記憶	早石修	28
		16	今井正 (映画監督 1912-91) レッドパーズの頃	林竹二	10
			今日出海 (評論・演出家 1903-84) ルソン島脱出記	平川唯一	38
		17	依田義賢 (脚本家・映画 1909-91) 映画スタジオの青春	平澤興	29
			渡辺暁雄 (音楽家・指揮者 1919-90) 母を語る	福本和夫	21
		33	高木東六 (音楽家・作曲家 1904-2006) パリ留学時代	福山敏男	26
			高光一也 (画家 1907-86) 仏の道と絵の道と	藤山愛一郎	1
		34	八木一夫 (陶芸家 1918-79) オブジェ焼誕生のころ	北條秀司	18
			寿岳文章 (英文学者・書誌学 1900-92) 紙すき村 行脚のころ	本田正次	9
35		大江巳之助 (文楽人形師 1907-97) 人形に魂をこめて	松田解子	32	
		手塚治虫 (漫画家 1928-89) こども漫画 33年	松前重義	11	
36		田河水泡 (漫画家 1899-1989) のらくろ誕生前後	丸岡秀子	4	
		横山泰三 (漫画家 1917-2007) プーさんの誕生	水上達三	22	
文芸	12	濱谷浩 (写真家 1915-99) 雪国からの出発	宮本常一	6	
		丹羽文雄 (作家 1904-2005) 母への愛憎	むのたけじ	2	
	13	井上光晴 (作家 1926-92) 海底炭坑の青春	森恭三	2	
		尾崎一雄 (作家 1899-1983) 病と貧乏と芳兵衛と	森繁久彌	19	
	14	黒岩重吾 (作家 1924-2003) わが闘病時代	八木一夫	33	
		大原富枝 (作家 1912-2000) ふり返る青春	山内みな	25	
	31	田宮虎彦 (作家 1911-88) 父子のきずな	山本茂實	31	
		中村真一郎 (作家・小説家 1918-97) 母と女のあいだに	湯浅八郎	29	
	32	山本茂實 (作家 1917-98) 野麦峠への道	横山泰三	36	
		石垣りん (詩人 1920-2004) わたしの前に詩集が三つ	吉野俊彦	23	
		松田解子 (作家 1905-2004) はるかなる銅山	依田義賢	16	
			渡辺暁雄	17	

NHK わたしの自叙伝

発行 **NHKサービスセンター**
(2012年) 総販売・大空社

CD 全39枚 解説書付 **全78人収録**

またとない生の^{なま}人間講座・貴重な人物図書館

*これで

昭和

が一層
近くなる

全巻揃 残部
数組

2025年1月

★一部の巻は分売可 (詳細下記)



- CD 1枚に分野毎2人収録しトールケースに収納 ● 収録時間平均 57分 / 枚
- 解説書 四六変型判(135 × 191 ミリ)・90頁

CD全39枚・解説書付 揃価格(本体 140,000円+税)

- 第1回(CD 1～20) 2012年5月刊 価格(本体 70,000円+税)
- 第2回(CD 21～39・解説書) 2012年10月刊 価格(本体 70,000円+税)

★一部の巻は分売できます (各本体 3,500円+税)。
在庫・詳細は販売元(下記)へお問合せください。

- さまざまな人間を知る楽しみ、人生の真姿に触れる喜び
- 自身の人生に重なる、印象に深く残る人に再会する絶好のチャンス!
- 知らない世代へ語り伝える格好の人生談の宝庫!

■五十音順人名/分野別一覧は11ページにあります。

〈お断り〉このCDはNHK教育テレビで放送された「わたしの自叙伝」(1978-1981年)の音声のみを収録したものです。音声が古いため一部聞き苦しい箇所がございます。またスタジオ外での録音には鳥の声などの外部音が混入した場合もございますが、その点ご了承の程お願い致します。

【ご利用にあたって】

- 本製品の内容・データは著作権法によって保護されており無断で複製することはできません。
- 公共図書館・学校など利用施設での個人利用者への無償貸出を許可します。○本製品を使用した著作物には、出典を明記してください。

販売元

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

●お取扱

資料に命を
作品に心を
形にして伝える。

eigyo@ozorasha.co.jp

TEL:042-306-3383 FAX:042-306-3384

(〒189-0001)東京都東村山市秋津町 5-24-13-101